



# 第84回NM-GCOEセミナー

2012.11.19  
薬学研究科  
2階大会議室

## Carsten Ehrhardt 先生

(Associate Professor · University of Dublin, Ireland)

### ~Drug Transporter Research in the Lung - Past, Present and Future~



Carsten Ehrhardt 先生はヒト肺胞細胞の初代培養法を確立し、また気管支や肺胞におけるトランスポーターや代謝酵素の発現、機能を解析することで、肺からの薬物吸収、体内動態への影響を研究されています。ご講演では喘息治療薬サルブタモールなどの吸入薬が肺胞細胞に発現する薬物トランスポーターを介して吸収される、といった知見を紹介頂きました。肺には複数のトランスポーターが発現しており、それぞれがどの薬物をどのくらいの寄与率で輸送しているのか、分子の実体の解明へ向けて今後の研究も期待されます。わかりやすくユーモアあふれるご講演で、多くを学びました。

金子洋介 (薬物送達学分野・大学院生)



#### 学部生・大学院生の感想

吸入薬として用いられる $\beta 2$  刺激薬と、肺に発現する薬物輸送トランスポーターとの関連性について、uptake 実験の結果などを交えて紹介していただき、大変興味深いお話が伺えました。

肺の様々な細胞株について、その特性を明らかにし、肺細胞の部位差にあてはめていくという研究が、肝臓の部位差を究明する自分の研究と繋がる部分がありました。自分とは異なるアプローチで部位差を究明する手法を学ぶことができ、有意義な講演でした。

It is need to pay more attention to the transporters in lung epithelium which have influence on drug absorption. This topic is very useful for drug transport study presently and in future.

